



# 明倫

舞鶴市立明倫小学校  
令和8年10月1日

10月号



## たくましく健やかな心と身体をきたえる秋に！

毎年驚くのですが、どんなに暑い夏が続こうとお彼岸の頃になると決まって赤いリボンのような曼殊沙華の花が咲き出します。今年も、土手や田んぼのあぜ道にその美しい姿を発見し、秋の深まりを感じる頃になりました。

今日から10月、スポーツの秋です。名古屋では、愛知・名古屋アジア競技大会が開催され、連日、日本勢の活躍が報じられています。とりわけ男子200メートル平泳ぎ決勝を世界新記録で制した17歳の大橋信選手の活躍が光りました。若い世代が世界を舞台に活躍している姿に元気をもらいます。本校の子どもたちも、10月10日の運動会に向け、演技や競技、応援合戦の練習に汗を流しています。心身を鍛えることは、健康面だけでなく体幹を鍛え、落ち着いて根気強く学習に取り組む基盤にもなります。また、精神面でも、何度も挑戦し、うまくいかなくても折れない心、仲間と励まし合い協力する集団意識を培います。運動会の練習を通して、たくましく健やかな心と体を鍛える秋にしていきたいと思います。



演技も競技も応援も、「協力」をテーマに日々練習をしています

今月号には、4月に6年生で実施した全国学力・学習状況調査の結果についても掲載しました。子どもたちにとって、漢字が読めたり計算ができたりする知識や技能だけでなく、資料を読み取って自分の考えをまとめたり、表現したりする思考力・判断力、また、自分から興味を持って意欲的に学び続ける力を付けることが大切です。そのような力が、これからの社会ではさらに必要とされます。正解かどうかだけではなく、その考えに至ったプロセスを振り返りながら説明し合ったり、互いの意見を聞いて友達の意見を取り入れたりして、学ぶことの楽しさを感じながら学習が進められるよう授業改善に取り組んでいます。



自分の考えをまとめ、友達と共有するためにタブレットは必須の道具となっています

その取組の中で本校が研究を進めている「ICTを活用したワクワクする授業づくり」ですが、子どもたちが課題をもって活動し、タブレットの様々な機能を使ってさらによいものにしようまとめたり交流したりする中で、自然に対話が深まり、いきいきと学ぶ様子が見られます。タブレットの扱いにも慣れ、文房具の一つとして使いこなしている子どもたちに感心させられます。AIの活用が加速する時代に、自分の頭で考え、正しく使いこなせる子どもたちを育てていくことは、学校教育の新たな課題だと感じています。自分の頭で自分らしくクリエイティブに考える子どもたちにしていきたいです。

10月も、教職員一同、安心・安全な教育活動に努めてまいります。保護者や地域の皆様には、引き続きご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

校長 岡本 恵理子・教職員一同